

表 3.1 (9) 近年の水質の状況（全亜鉛）

水域名	都府県名・水域コード 水域名・地点名	測定 年度	全亜鉛		
			最小値	最大値	平均値
響灘及び 周防灘	福岡県 605 1 洞海湾水域（響灘） H 1	H23	0.002	0.004	0.003
		H24	0.002	0.002	0.002
		H25	0.002	0.002	0.002
	福岡県 605 2 洞海湾水域（響灘） H 5	H23	0.001	0.004	0.003
		H24	0.001	0.004	0.002
		H25	0.001	0.001	0.001
	福岡県 605 52 洞海湾水域（響灘） H 3	H23	<0.001	0.003	0.002
		H24	<0.001	0.003	0.002
		H25			
	福岡県 605 53 洞海湾水域（響灘） H 4	H23	0.002	0.004	0.003
		H24	0.002	0.005	0.004
		H25			
	福岡県 605 55 洞海湾水域（響灘） H 7	H23	<0.001	0.002	0.001
		H24	<0.001	0.003	0.002
		H25			
	大分県 607 1 豊前地先海域 S u S t - 4	H23	<0.001	<0.001	<0.001
		H24	<0.001	<0.001	<0.001
		H25	<0.001	<0.001	<0.001
	大分県 607 2 豊前地先海域 S u S t - 6	H23	<0.001	<0.001	<0.001
		H24	<0.001	<0.001	<0.001
		H25	0.002	0.002	0.002
	大分県 607 3 豊前地先海域 S u S t - 8	H23	<0.001	<0.001	<0.001
		H24	<0.001	<0.001	<0.001
		H25	<0.001	<0.001	<0.001
	大分県 608 1 響灘及び周防灘 S u S t - 1 1	H23	<0.001	<0.001	<0.001
		H24	<0.001	<0.001	<0.001
		H25	<0.001	<0.001	<0.001

※1) 公共用水域水質測定結果より（HP:水環境情報総合サイト）：濃度の単位は mg/L

※2) 水生生物保全環境基準について

類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値（全亜鉛）
生物 A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下
生物特 A	生物 A の水域のうち、水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L 以下

※3) 全亜鉛について、0.01mg/L 以下（無色）□、0.01mg/L 超過 0.02mg/L 以下（青色）■、0.02mg/L 超過（赤色）■で示した。

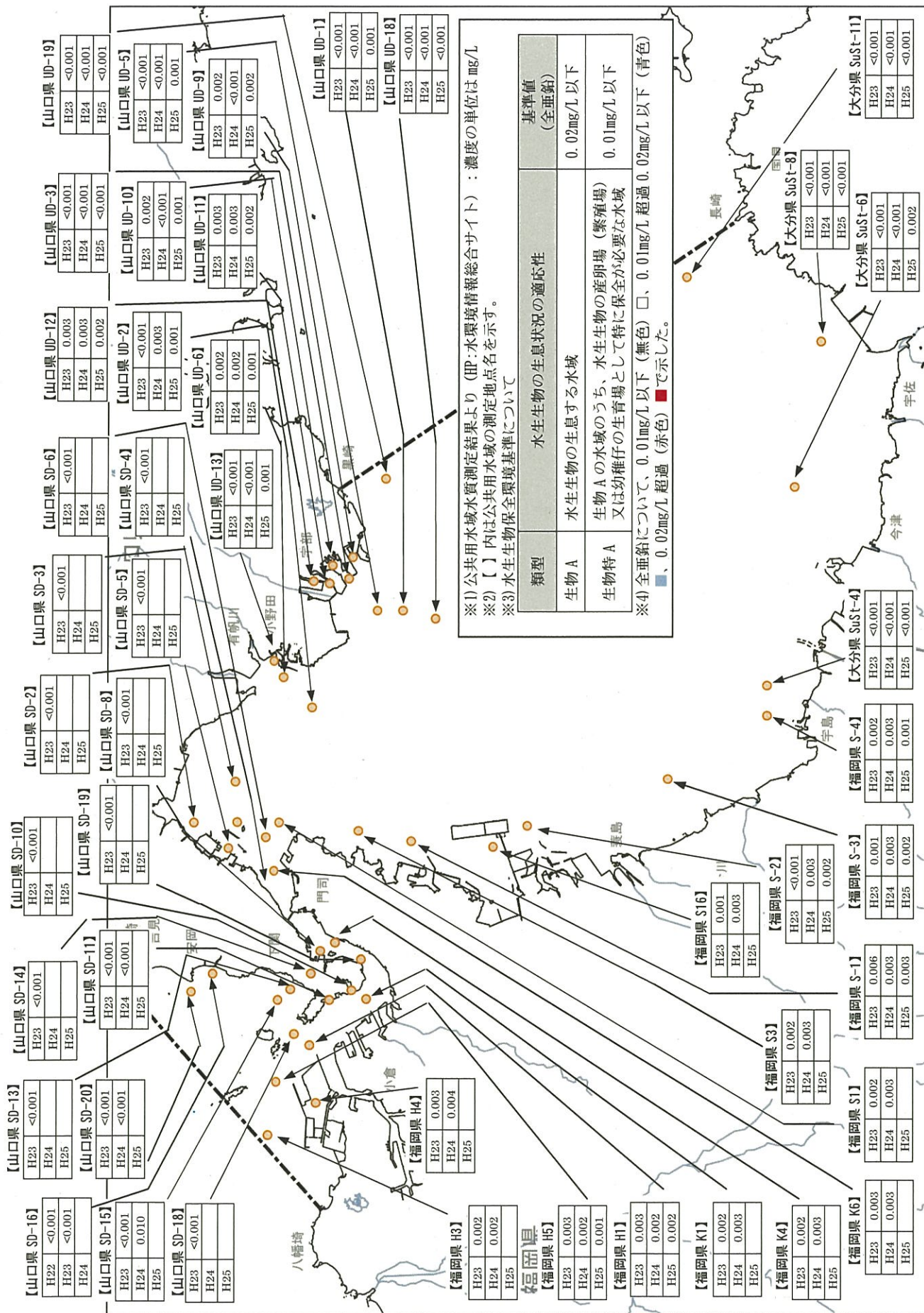


図 3.2 (1) 全亜鉛の濃度分布 (年平均値)

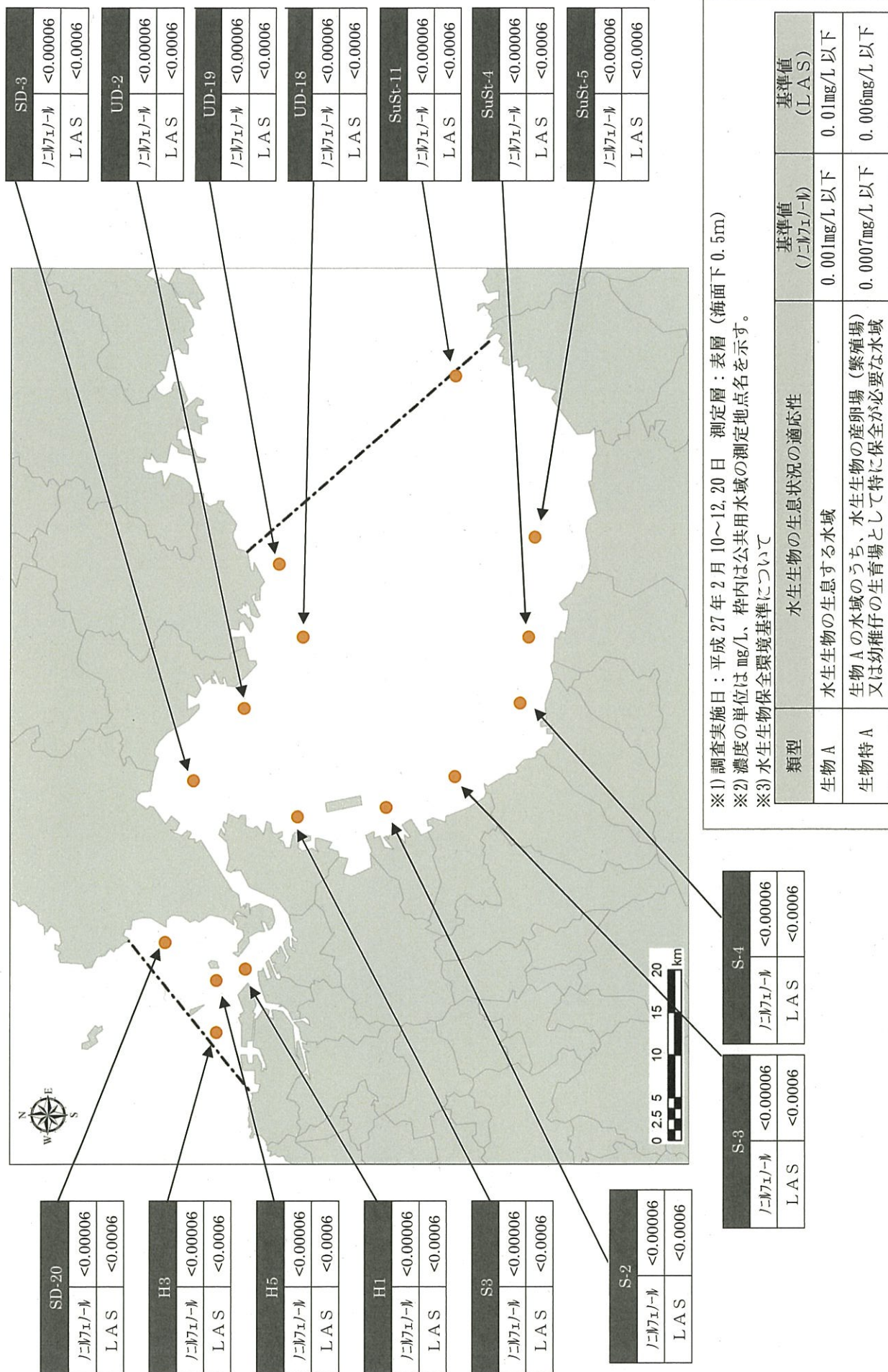
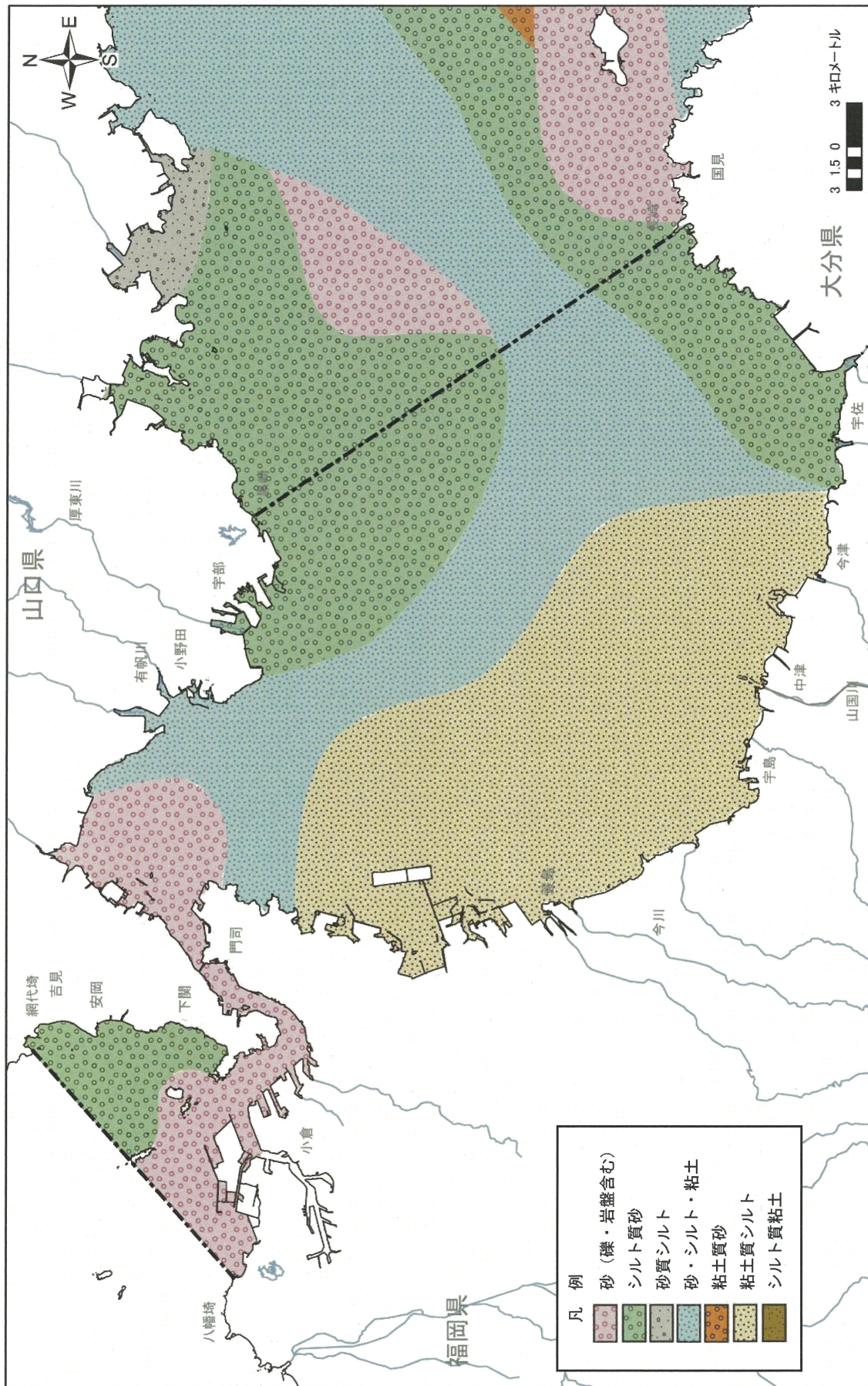


図 3.2 (2) ノニルフェノール、LAS の濃度分布（平成 26 年度調査結果）



出典：井内美郎 「瀬戸内海における表層堆積物分布」 (地質学雑誌 88 (8) 昭和 57 年 8 月) より作成
 注) 区分は、粒度分析による砂-シルト-粘土の成分比を用いた Shepard (1954) の分類に基づく。

図 3.3 底質の分布状況